



▲祭事は暮らしの一部
◀皆で集まり、話し合う



この付近は、元和5年（1619年）、宇都宮城主・本多正純による町割り替えのとき、古い堀を埋めて町場にしたところといわれ、その時「江戸町」と名付けられたのが町名の起りといわれています。江戸のような粋な町、という意味もあったのではないのでしょうか。

子どもからお年寄りまで全ての人が安心して暮らし、訪れた人が安全に、ゆつくりと歩いて楽しめるような人に優しい町にしていきたいと思っています。

江野町にはかつて、芸者が多く住んでいたの、三味線や歌を練習する音を聞きながら通学し、小学校の校庭や駄菓子屋で遊んでいた。

そんな江野町住民の最大のコミュニケーションの場は、何といても祭事です。天王祭や菊水祭などに参加するのはもちろんですが、昔は、子どもたちだけでも樽と竹で作ったみこしを担いで近所を回り、お菓子をもらうのが楽しみでした。



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



江野町自治会 会長
大橋 好守さん



写真提供 Osawa Sakiko/Base Camp

小学6年生のときに、お父さんの勧めでクライミングを始め、いつの間にかクライミング中心の生活になっていったそうです。「自分の

今回の連覇で視野が広がりました」と振り返ります。

「初優勝のときは、驚きとうれしさで、これから自分の人生がどう変わるのかと楽しみました。連覇をして、自分に自信が持てるようになりました」と話すプロフリークライマーの安間佐千さん。2012ワールドカップリード種目総合優勝を果たし、2013年には日本人初の連覇を成し遂げました。「今までは自分が強くなるために、自分のやりたいことを突き通していました

「今後は、世界でも登りきった人が少ない自然の岩場への挑戦など、自分のできることを探していきたいです」と、新たな目標を見据え、世界の壁を登っていきます。

1月に宇都宮愉快市民に就任した安間さん。「クライミングというスポーツは、人がいればいるほどつながっていきます。宇都宮はクライミングジムも多いですし、クライミングを通して、宇都宮を盛り上げていきたいです」と、地元への思いを話します。

全てに登り方に出ることがクライミングの魅力です。人間関係で悩んでいるときは、うまく登れなかったり、自己表現の場でもあります」と笑顔で話します。



プロフリークライマー
安間 佐千さん

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

ワールドカップリード種目で
日本人初の連覇